

みやぎSDGs Farm

第37号

2025年7月28日(月)

発行：河北新報社営業局
特別協力：SDGsとうほく



佐藤さんの話に耳を傾ける「みやぎSDGs塾」参加者

今回の「みやぎSDGs塾・標準コース」では、「みやぎSDGsファーム」参加企業の担当者が、自社のSDGs関連の取り組みについて紹介しました。

「SDGs塾」での出会いが複数の事業のきっかけに

取り組みを紹介したのは、食品卸業などを営む国分東北の佐藤さん。佐藤さん自身は第3タームの前期に「みやぎSDGs塾」を修了して「みやぎSDGsアンバサダー」の一員となりました。

交流が新たな取り組みを生む

6月24日、河北新報社で「みやぎSDGs塾」第4ターム後期・第2回の講座があり、「標準コース」実践コース「それぞれの参加者が学びを深めました。」

仲間の考えを聞く

意見交換から生まれる共感

佐藤さんの発表に続き、参加者らは、自身の実践や今後の課題についてSDGsに関連付けながら用紙に記入。さらにその内容について、4〜5人のグループ内で発表し合い、質問や意見を交わしました。「書類の電子データを進めたいが実現までのハードルが多い」「地元企業として地域の人との交流を重視したい」など多業種に共通する課題についてメンバー間に共感が生まれたほか、脱プラスチックの啓発活動をする大学生の取り組みが社会人メンバーの興味を引くなど、各グループで踏み込んだやりとりが見られました。



自身や自社の現状と課題を記入



用紙に記入した内容を元に、グループ内で考えを伝え合う参加者

「みやぎSDGs塾」のアドバイザーを務めるSDGsとうほくの紅邑晶子さんはグループトークの様子を踏まえ、「各社個人それぞれに多くの資源を持っていると感じた。お互いの資源を掛け合わせることで新しい取り組みが生まれるような形に発展させるか、これから考えてほしい」と参加者に語りかけました。

佐藤さんはまず「地球環境」「食糧生産」「生活者などを重視する同社の理念や、従来の取引先に限らず行政、教育機関、異業種との連携を深めていくという方針について説明しました。

SDGsに関わる同社の事業として佐藤さんが紹介したのは、宮城県南三陸高等学校との連携です。佐藤さんは自社の取引先の協力も得て、「防災食のイメージを変えるおいしいレトルトカレー」を作る生徒の探求活動を支援。東日本大震災の被災地という背景を踏まえ、また南三陸町で養殖が盛んなギンザケを具に用いるなど、地域色を反映した商品を作成させました。



国分東北の事業について紹介する佐藤さん

参加者の声 交流を通し意識に変化

グループトークでは、他社が実践している小学生向け教育事業や社内SDGs研修について知りました。私も、他者に向けていくのか、という点を意識してみようと思います。



日建リース工業 佐藤柊斗さん

また佐藤さんは、生コンクリートを製造・販売するタイハクと宮城県南三陸高等学校との連携事業や、尚綱学院大学と国分東北との協力関係などに触れ、「これは「SDGs塾」での出会いがきっかけになった」と指摘。「交流を通して、一緒に何ができるかを探っていくことが、新たな取り組みにつながった」と強調しました。



国分グループの報告書はウェブ上で閲覧可能

みやぎSDGs塾って？

国連が提唱する「SDGs(持続可能な開発目標)」を軸に企業や個人が連携し、豊かな地域づくりを目指す取り組み「みやぎSDGsファーム」の基幹プログラム。SDGs活動を推進する人材「みやぎSDGsアンバサダー」を養成する「標準コース」と、具体的な事例の発展に向けて議論する「実践コース」の2講座が開講され、2021年から河北新報社が運営しています。

参加はこちらから！



賛同企業 募集中!!



公式HP
お問い合わせ
河北新報社営業局
TEL / 022-211-1318
MAIL / koukoku@po.kahoku.co.jp

実践コース 社会課題とビジネスの接点について考える

「みやぎSDGs塾・実践コース」は、テーマを設定して情報提供と意見交換を行う形式で実施。「ソーシャルベンチャーの海外事情」をテーマに据えた今回は、「国際的な視点を持つ人材を育成したい」「高等学校教員」「外国人スタッフの雇用を考えている」(食品製造業など)の関心をもつ参加者10人ほどが集まる中、東北大学のケン・チ・ギア准教授が出身地のベトナムの話題を中心に講話しました。

ケンさんはベトナムで食の安全・安心に対する関心が高まっていることに触れ、日本の企業がベトナムの農地で無農薬の作物を生産している事例などを紹介。日本の技術やノウハウの活用が、ベトナムでのビジネスチャンスになるだけでなく、社会課題の解決につながる可能性をもつと考えを述べました。

アドバイザーとして参加したSDGsとうほくの高浦康有さんは「ケンさんの講話を受け、日本の資源を海外でどのように生かす、社会的な事業を広めていくのか。発想力が問われているので話しました。」



講話の後、ケンさん(左から2番目)、高浦さん(中央)を交え意見交換

日本の技術を海外で活用

TOPICS

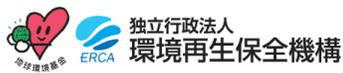
大阪・関西万博の「ジュニアSDGsキャンプ」にて、2024年度全国ユース環境活動発表大会の全国大会に出場した3高校(徳島県立小松島西高校、宮城県農業高校、北海道岩見沢農業高校)の生徒が、取り組んでいる環境活動を世界に向けて発信しました。当日は活動発表のほか、SDGsやESDの実践の場として、大学生と持続可能な社会についてのディスカッションや意見交換を実施しました。今後の活動の方向性について熱心な議論が行われ、「課題の発見や活動が広がっていく可能性を実感した」などの感想があり、有意義な交流となりました。



第4ターム参加者(敬称略)

【荒町商店街振興組合】庄子康一【YES工房】大森文広【SKホールディングス】松本優【エントワデザイン】佐藤寛和【オフィス塩竈】加藤貴伸【環境再生保全機構】国分東北 佐藤悟、種田茉友、千田李奈、高本和樹【仙台グルメ】橋上翔大【大日本印刷】阿部巧、小泉一也、矢島進人、大沼真洋【タイハク】南條世紀、水戸伸祐、加藤ひなの、京亮汰、岩本侑樹【日建リース工業】木村浩一、佐藤柊斗【日本旅行東北】櫻井寛也、鈴木優希、伊藤佳奈【日立ソリューションズ東日本】大柴千翔【松島蒲鉾本舗】葛西健太郎、曾我麗子、吉松智代【宮城県民共済生活協同組合】松野友紀、鹿野大、加藤雅也、今野凌汰、菊池佑輔、宮崎和奏【みやぎ生活協同組合】高橋美咲、石田詩歩、乙戸沙織【ミライトス】鈴木圭介【山一地所】白澤峻平、佐藤浩一【WACO CREATE】岩村和哉、岩村優香【仙台高等学校】渡部真路【尚綱学院大学】坂本真斗、佐藤翔太、安孫子裕貴哉、阿部蓮【宮城大学】石井祥裕、石田夏寧、尾形心、佐藤愛梨、鈴木安純、中村暖彩【オブザーバー】紅邑晶子、高橋好郎、高浦康有

賛同企業・団体・個人



特別協力 SDGsとうほく

協力 宮城県 JICA東北

荒町商店街振興組合

YES工房

オフィス塩竈

いなかの駅やしまや

多賀城工場地帯連絡協議会

WACO CREATE

仙台高等学校

尚綱学院大学SDGsセンター

宮城大学フードサービス論研究室